



Vol.10

第10回のテーマはこちら

「オピオイドの精神依存」

～ケミカルコーピングと偽依存について～

オピオイドを多用する際によく挙げられる問題点として「依存」と「耐性」があります。「身体依存」と「耐性」に関しては、患者に“痛みがある”なら大きな問題にはならないとされています。では、「精神依存」はどうだろうかというのが今回のお話です。

精神依存は次のように定義されています。

- ① 自己制御できずに薬物を使用する
- ② 症状(痛み)がないにもかかわらず脅迫的に薬物を使用する
- ③ 有害な影響があるにもかかわらず持続して使用する
- ④ 薬物に対する強度の欲求がある

「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン」より

精神依存になってしまうと、薬物の多用による副作用出現のリスクにくわえて、身体依存や耐性を増長させる要因となってしまいます。

精神依存の前段階にみられる現象として、「ケミカルコーピング」があります。

ケミカルコーピングとは、「オピオイドを疼痛緩和ではなく、精神的苦痛の緩和を目的に使用すること」です。つまり、本来の目的とは異なるオピオイドの不適切使用に当たるため、見過ごしてはいけません。ケミカルコーピングが疑われるときは、オピオイドの使用方法を考え直す必要があります。具体的対応としては、非オピオイド薬物の併用や非薬物療法などが挙げられます。さらに、一番大切なのは、「患者の抱える『心のつらさ』に焦点をおいて対応すること」です。ケミカルコーピングに陥った背景と丁寧に向き合っていくことで、精神的苦痛の緩和を目指しましょう。

しかし、ケミカルコーピングを意識しすぎるあまりに、「痛みの増強によってオピオイドの使用量が増えている場合」を見落とす可能性があります。このような状況を「偽依存」といいます。ケミカルコーピングを疑う前に、痛みのアセスメントや薬物療法の評価をきちんと行い、偽依存でないことを確認するようにしましょう。